

毎日傘を持ち歩かなければいけない季節になりました。傘の忘れ物には注意しましょう。(by あらゆる交通機関)
前号に続きまして、3月27日に行われたJDAの大会の特集です。今回は、A論題で「日本政府は、北朝鮮に対し、より友好的な外交政策をとるべきである」で参加された井本さんの体験談を掲載いたします。

北朝鮮論題への道

井本 美子

◆論題について

当初はタイムリーだしおもしろそうな論題だなと思いました。しかし準備はかなり難航しました。何がメリットで何がデメリットなのかということに到達するのに時間がかかってしまったからです。この論題の難しさは、北朝鮮が情報公開をしておらず、関連文献もあいまいな表現しかできないという点にあると思います。結局試合前日まで確信を持てるような準備はできませんでした。

以下、この論題にいかに関心組んだか、肯定側、否定側別に私たちチームの準備過程を踏まえて書いてみます。今後、類似の論題を行うときに参考になればと(ならないか?)と思います。

◆肯定側について

プランとしては食糧援助、メリットは人権的援助、朝鮮の暴走を防止というものでした。プランについては、正直いってこれくらいしか思いつきません

定例会は、肯定側で試合をすることになりました。第1立論は私の担当でした。パートナーの渡辺起里さんとかなり時間をかけて検討をしたはずですが、うまく立論を組み立てることができません。こちらのいいたいことを断言している資料がないのです。「北朝鮮は暴走して戦争を起こさないだろう。しかし、ないとは言えない」「ソフトランディングは有効である。しかし曖昧な点も多く含んでいる」万事がこの調子です。本当に途方に暮れました。それは参加者はだれもがこの点を悩んでいたようです。

また、丁度定例会の一週間前から米国の検査官が実現化の運びとなり、毎日新しい情報が新聞に掲載されていました。この点も議論に盛り込まないといけませ

ん。とにかく定例会突破が私たちの第一目標でした。否定側の綾部・中山チームは日米の関係が悪くなる、経済摩擦が起こる、というものでした。さすが熟練したディベーターチームです。よく構成された立論です。反駁していてもどこが守られたのか、どこを落としそうなのかわからずに議論が進んでいきました。結果は数票差で肯定側の勝ちとなりました。女性二人が悲壮な面持ちでスピーチする姿が同情を誘った(?)という話もありましたが、結局「人道的食糧援助」はデメリットと相殺してもしきれないと判断した人が多かったということでした。ここで「人道的」というのは残る議論だ、と判断できればよかったです。私にはたまたま票数がちょっとだけ多かったとしか思えません。こういう控えめな考えはよくありません。この点で勝ったんだ!とはっきり認識する必要があります。

実際の大会の試合でも苦戦しましたが、否定側の戦争デメリットが成立しにくい、肯定側の食糧援助がわずかでも可能であるというジャッジの判断のもと、これまたなんと一勝を上げることができました。しかし、もっと確信をもった準備・スピーチができれば、定例会と本番、2度も冷や汗をかくこともなかったと思います。

◆否定側について

定例会後、やっと否定側準備に手をつけることができました。肯定側よりさらに頭の痛くなりました。一国の政府が友好的な政策を打ち出すのにデメリットなんて起こるのだろうか。それが一番の難関のように思えました。しばらくすると、この論題の場合、「戦争が起こる」というデメリットが無難らしいということが

わかったので、検討する時間もなくて話を進めることにしました。友好的政策→金正日政権に金及び物が享受される→(享受物を直接投資しなくても)潤った金及び物を間接的に軍事費に回す→戦争を起しやすくなるので、戦争になる、というシナリオをつくりました。それほど自身の持てる議論ではありませんでしたが、これでいくしかありません。実際の大会では否定側はどれも似たり寄ったりのデメリットで大差はありませんでした。ただ、よりましな証拠が見つかるか、それをうまく運用できるかが勝負の別れ目だったようです(そもそもアカデミックディベートとはそういうものですが)。

私は、肯定側がとんでもないびっくりプランを出してきたらどうしようとそればかり心配していました。綾部チームが、観光ツアーを推進するというプランだということは前もって教えてもらっていました。これも知らなかったらかなりびっくりプランだと思います。しかし、これまた心配しすぎであって、試合では、食糧・医療援助が圧倒的でした。

私たちは、戦争デメリットの他に、渡辺徹氏のアドバイスにより「論題充当性」という裏ワザのごとき議論を用意しました。つまりどんなプランがでてきても、それは論題の「より」と「友好的」という言葉にあてはまっていないと主張するのです。初めはびっくりプランに対抗するためのものでしたが、食糧援助がでてきても使おうということになりました。

そして、本番。第1試合が否定側になりました。肯定側は食糧・医療援助をプランとしてきました。しめた！びっくりプランじゃない、勝てるかもしれない、と思いき勢よくスピーチを行いました。起里さんも私もかなり自信をもって議論を進めていきました。しかし結果は完敗です。ジャッジは私たちの議論に初めから否定的だったようです(そういえば渋い顔していた)。「肯定側は論題充当性をだれがどうみても満たしている。否定側の議論は姑息(と言ったかどうか忘れましたが)である」、「どこをどうゆうふう解釈すれば、戦争が起こるのか、私には全く理解できない」「西岡なが(現代コリア編集長のこと、彼の主張を多く用いた)

とか雑誌「正論」(産経新聞発行)などというのは自分たちの憶測を述べただけで証拠には成り得ない」など、けちよんけちよんにけなされました。今考えれば、ジャッジのコメントも一理あるなと思えます(あくまで一理です、それ以上はないです!(-_-)。戦争デメリットは確かに、始めに述べた理由により、論証しにくいものです(参加者6チームのうち2勝できたのは1チームだけ、多分みんな否定側で負けたのでは?)。

私たちに比べ、第2試合にあたった否定側の大学生、吉野・木村チームは戦争デメリットをうまく論証していたと思います。先程述べた資料の運用の仕方がうまいのです。それでも一敗してしまっただけですから、やはりこの論題は難しいのですね(その後、彼らは熱っぽくディスカッションを重ねていました。その甲斐あってか、決勝戦に出場し見事優勝果たしたのであります)。

◆大会を終えて

こうして、難関・北朝鮮論題への挑戦は終わりました。大会の結果としては一勝一敗でしたが、この挑戦により、前より少しは向上したかなあ、という気はします。またディベートをがんばってやっていこうという意欲がさらに生まれてきました。

最後に、パートナーとなってくれた渡辺起里さん、多大なるアシストをしてくれた渡辺徹さん、加藤宏さん、同じA部門に出場した綾部さん、中山さん、そして定例会でいろいろアドバイス下さった瀬能さんをはじめJBDFのみなさま、ありがとうございました。今後とも、よろしく願います。

井本さんお疲れ様でした。秋の大会も活躍して下さいね。(^ 0 ^)

26日はDaily Yomiuriの大会です。参加者の皆さんががんばって下さい。記事もお願いします m (_ _) m

7月例会

日時：7月23日(金) 19:00~

内容：日本語ディベート 場所：新橋福祉会館